

独立行政法人国立女性教育会館 理事長

内海 房子さん

# 男女が共に輝く社会へ

平成27年12月、第4次男女共同参画基本計画が策定されました。その中には、人口減少が進む中、将来にわたり持続可能な地域社会を構築するためには、女性の活躍が鍵であると記されています。そこで、地域で女性が活躍するために、今どのような取り組みが求められるのか、女性教育に造詣が深い内海房子さんにお話を伺いました。



## 男女共同参画が鍵を握る地方創生

国立女性教育会館(NWEC・ヌエック)は、男女共同参画社会の形成を推進する国の機関です。これまでは主に地域や大学における男女共同参画の推進を図ってきましたが、近年では企業へと対象を広げ、企業で働く女性に焦点を当てた活動を強化しているところです。

第4次男女共同参画基本計画では、女性の活躍を妨げる一因として、長時間勤務や転勤が当然とされる男性中心の働き方を前提とする労働慣行(男性中心型労働慣行)の変革を大きく取り上げています。既に女性が活躍している企業では、仕事と子育ての両立支援や女性管理職の登用が進められています。一方、一部では女性が特別扱いられているかのような状況も見受けられます。本来、仕事をする上では男性も女性も対等です。企業においては、男女の差別なく将来を見据えて教育し、さまざまな経験を積み重ねる機会を平等に与えることが大切だと考えています。

また、地域活動はもともと女性が活躍していた分野ですが、これからは男性の参画が非常に重要です。地域に男女共同参画が欠かせないと言うと、女性の活躍が欠かせないと思われがちですが、実は男女両方の力が不可欠なのです。男女が自らの意志によりその個性と能力を十分に発揮することによって、地域における男女共同参画が初めて実現します。もちろん、男性がリーダー、女性がフォロワーなどと決めつけてはいけません。男女が対等な構成員として地域のために力を合わせる事が大切です。最も身近な地域で男女共同参画が実現すれば、その流れが企業や社会へと広がっていきます。日本の男女共同参画社会実現の鍵を握るのは地域であり、男女が共に輝く地域をつくる事が地方創生の鍵であると私は考えています。

## きめつけない 期待して 鍛える

地域や企業のリーダーには、これまで男性社会の中で生きてきたという方が多いのではないのでしょうか。男女共同参画社

会の実現に向けた女性の活躍と人材育成のために、私からリーダーの方々にお伝えしたいのは、3つの“き”です。まず1つめは男だから女だからと“きめつけないでほしい”。2つめは一人ひとりの力に“期待してほしい”。そして3つめが“鍛えてほしい”ということです。ぜひ、この3つの“き”を地域や職場で実践してみてください。

また、現在、男性中心型労働慣行の変革が進められていますが、このような長時間労働が当たり前という働き方は、男性から家庭や地域で得られる多様な経験を奪い、男性にとっても暮らしやすさを阻む要因になっています。多様で柔軟な働き方が選択できるよう働き方改革を進めるとともに、男は仕事、女は家庭といった旧来の性別役割分担意識も変えなければいけません。今や男性が家族を養わなければならないという時代ではありませんが、「男らしさ」にこだわるあまりに生きづらさを感じている男性も見受けられます。そんな男性には「女性をもっと頼ってください」と声を掛けたいです。重い荷物は夫婦でシェアして、共に力を合わせて仕事と家庭の両立を図りましょう。

まだまだ女性にも「私は女だから」、「母親だから」、「妻だから」と、自分で自分を締め付けている人がいます。もっとおらかに構えて、人生を楽しみませんか。仕事のキャリアを中断せざるを得ないということもあるでしょうが、達成したい目標があるのならば諦めずにチャレンジしてください。性差に対する偏見や慣行にとらわれず、自分らしい人生を歩めば、必ずどこかで道は開けるはずですよ。

### Profile

プロフィール

内海 房子  
うつみ ふさこ

1971年津田塾大学数学科卒業後、NEC入社。1987年技術課長。1989年人事部に転じ、全社の女性活用を手がける。以後、人事・勤務・人材育成の仕事に従事。2001年NECソフト株式会社執行役員、2005年NECラーニング株式会社社長に就任。2011年7月から現職。地域において男女共同参画を推進する人材の育成に加え、大学や企業内における女性の活躍促進をテーマとした事業を積極的に展開している。著書に「私は、人事課長一年生」(日経連広報部1990年)「もっと素敵にワーキングライフ」(大和出版1993年)がある。

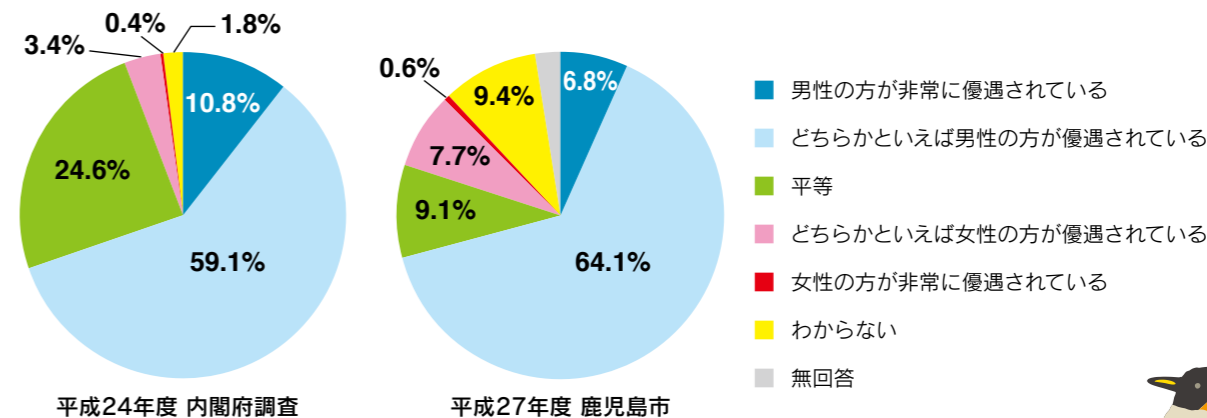
## 特集

# データで見る “今ドキ” 鹿児島市の男女共同参画

昨年8月、女性の職業生活における活躍を進めるための法律(女性活躍推進法)が成立しました。一方「イクメン」「カジダン」など、子育てや家事に積極的に取り組む男性像が徐々に広まっています。昔に比べてずいぶん男女平等な世の中になっているように思える昨今ですが、鹿児島市の実態はどうなっているのでしょうか?平成27年9月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」から、今ドキの鹿児島市民の意識や実情を見てみましょう。

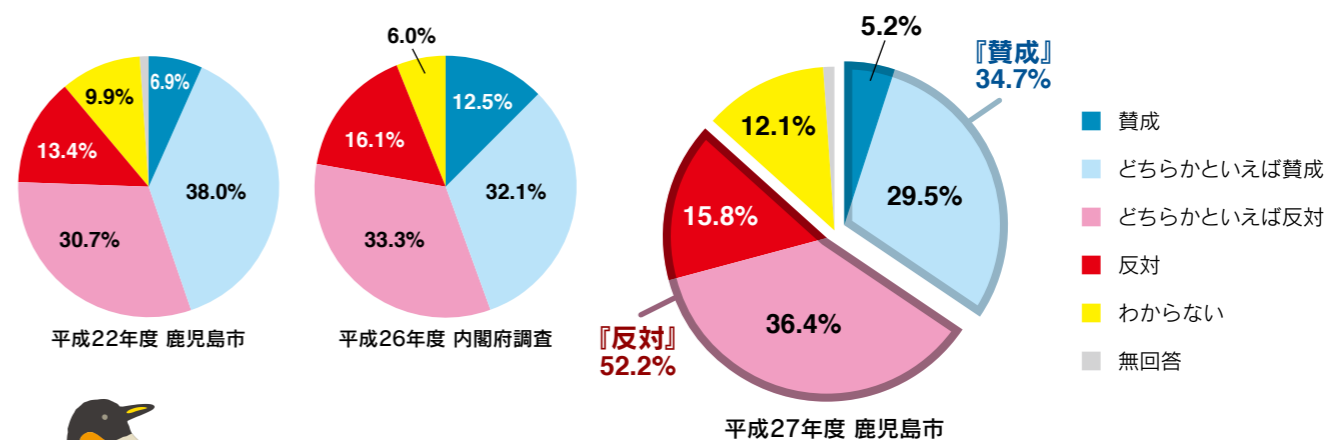
(本調査は鹿児島市住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の鹿児島市民3,000人を対象に実施しました。)

## 1 「社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか？」



「男性の方が優遇されている」と思う人がとても多いんだね。それに鹿児島市は男女が平等になっていると思う人が国の調査に比べて少ないね。

## 2 「男性は仕事、女性は家庭という考え方についてどう思いますか？」



鹿児島市では、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方には賛成できないな、という人が増えて過半数を超えたんだね。国の調査よりも多くなっているよ。

